

ネットワーク



△丘小学校の開校により丘地区は誕生しました



さわやかで 活力あるまち

丘

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。12月は大湖、2月は神戸地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。(1月は新年号発行のため休みます)

丘地区は、昭和四十八年、丘小学校が開校したことを契機に、鷹岡地区の厚原、伝法地区の片宿・傘木、大湖地区の末広町が合併してできた地区です。

厚原地区は、歴史も古く、鎌倉時代に甲斐の人、植松兵庫之助信継が熱原に移り住んで、現在の鷹岡伝法用水路(通称「一本樋」)をつくり、付近の開拓をしたときから始まります。また、鎌倉時代、入山瀬にあった天台宗滝泉寺の院主代行智と幕府の日蓮教団弾圧事件は、熱原神四郎の磔という結末となり歴史上、熱原法難として知られています。

地区は、近年まで農業地域でしたが、高度経済成長による産業の発展につれ、通勤圏として、ベッドタウン化が進み、特に西富士道路が開通してからは、市内でも一、二位を争う人口急増地区となっています。

しかし、南部の厚原南は、水田地帯、北部の厚原北・末広町は、茶畑の広がる農業地域で、まだまだ自然の景観が残る地区です。



△写真左から光則さん、辰弥君、由佳さん、貞江さん、香余さん



おはやしファミリー

厚原中 鈴木さん一家



厚原中のお地藏さんのお祭りでは絶えて久しかったおはやし。それを家族あげて復活させたという、とてもにぎやかな鈴木さん一家におじやました。

五・六年前、青年会の役員をしていた光則さん(四十二歳)は、公会堂ではこりにまみれた太鼓を見つけた。光則さんも奥さんの貞江さん(四十二歳)も根っからのお祭り大好き人間。太鼓を見つけた光則さんの頭に祭りばやし

が広がったのは、いうまでもありません。そしてこの夏、厚原中のお地藏さんの祭りで、光則さんは太鼓を復活させました。たたく人は鈴木家の家族五人。光則さんと長男辰弥君が太鼓、長女香余さんと次女由佳さんが小太鼓、貞江さんが鐘を担当します。

江さんが鐘を担当します。笑い声が絶えず、ネアカの鈴木家のこと、豆だらけになった手の痛さも忘れて、すばらしいリズムを披露しました。

ひげが自慢の光則さんは「最近社会が全体的にクールになって地域の行事に元気がありません。太鼓を通して楽しみながら地域の和ができれば」と考える熱血漢。

これからの課題は、芽が出たばかりの太鼓をいかに継続するかということ。来年は近くの子供たちにも広め、将来は「おはやし」をつくりたいと考えている皆さんです。



新市20周年記念作文・中学生の部
で市長賞を受賞

石原圭一郎さん

吉原第三中学校 三年

夏休みの宿題として出された作文の課題の一つが新市二十周年。普通に考えるところやとつつきにくい題材に、こともなく挑戦し、見事市長賞を受賞しました。石原君の作文は、何と言つてもその観点に特徴があります。「富

士市の二十周年は頭の隅にいつもあった」と言つように、ふだんから社会のことに関心を持っています。そして、例えば自然の大切さをあらわすのに、赤沢川でサンショウウオを見た経験を述べるなど、生物や歴史など広い範囲の知識をもとにしています。

ですからこれまで、緑化作文や市民憲章普及推進作文などでも入賞してきました。

三年間担任してきた石川先生は「まじめで、派手さはないが地道な行動力のある生徒。」と評する。「ファミコンは苦手。外で遊べるようなレクリエーション施設や博物館を充実してほしい。」と語り、

新人類とは一味違う少年です。



その観点に特徴があります。「富

まちか

我がまちを語る



沢山 隆さん

厚原南(64歳)

旺盛な開拓者精神

厚原は昔、熱原と書き、熱い原つまり水がなく、人の住むようなところではないと言われたようです。特に北部は天神山と呼ばれ終戦前後は家が五軒しかありません

んでした。水がなく、天水に頼りオーバーに言えば陸の孤島のようなところでした。その後、開拓者精神旺盛な人々の力で少しずつ開け、今は四百戸以上の家が建っています。昔を知っている人間からすれば、これは驚くべきことです。また、一二七九年に、日蓮宗の弾圧として有名な熱原神四郎の事件がありました。これは、丘地区の反骨心を、今に伝えるものといつてもよいでしょう。丘地区も将来区画整理が行われると聞いています。これまで培われた開拓者精神と反骨心で、すばらしいまちづくりが行われると思います。



「NOBODYのふれあいの輪」
厚原南区七班の皆さん



山の神さんを掃除
石川いとさん(厚原東二)



「びよびよ」
渡辺恵さん(厚原北)

あの人の人こんなこと



ことしの二月、一度に二人(左、佳介君・右、亮平君)のママとなった渡辺恵さん(二十四歳)。ご主人に協力してもらっても、育児になかなか忙しい毎日です。四月から丘公民館の「びよびよ学級」に入り、赤ちゃん体操・離乳食など勉強しました。「健康で、友達のいっぱいできる子になってほしい」と、思わずほっぺにチュウ。

石川いとさん(七十九歳)は、何十年の間、地元山の神さんの掃除をこつこつと続けてきました。「私は野良仕事に性にあっていますから、草取りは健康法の一つです。これまで医者にかかったこともなく、元気に働けるので御利益もあるでしょうね。」と日焼けした顔でニッコリ。

「芋の煮っころがし」「八宝菜」など、各家庭の料理を持ち寄って一カ月に一回は懇親会を開くという厚原南区七班の皆さん。しかも、会場は中古のバスの中というユニークなもの。窓がたくさんあるので、月見も花見もオツケー。酔ってくればさながらバス旅行の雰囲気も出ます。連帯感ではどこにも負けない皆さんです。